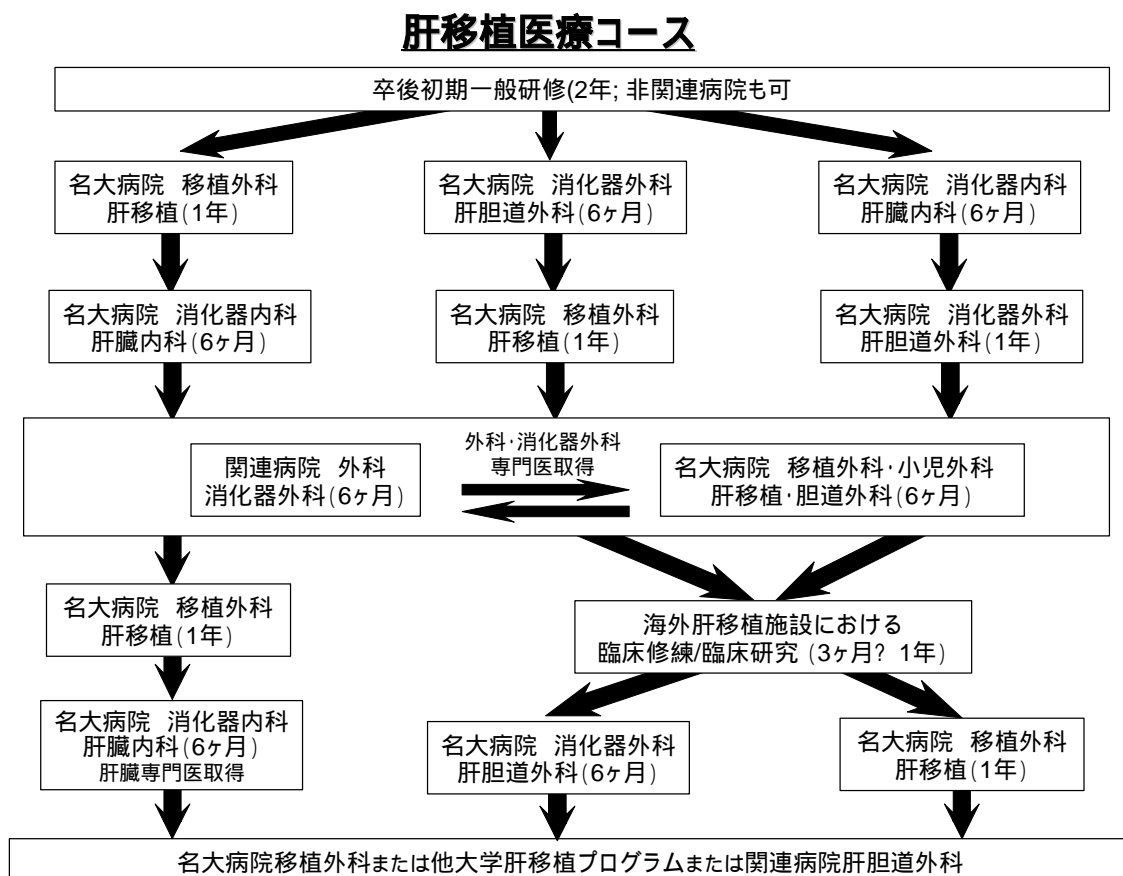


コースの概要

(1) コースの全体像

肝移植医療では、肝疾患初期診療から肝不全・肝癌診療、肝胆道外科、急性期全身管理、薬物療法・感染症学、さらに移植後慢性期診療に至る広汎な知識・技術が要求される。また、医療倫理あるいは医療経済学への洞察が要求される機会も多い。学会主導型の専門医制度は未だ準備中であるが、この領域における主治医としての診療研修、さらに臨床研究推進能力の習得は、将来肝胆道外科や肝臓内科を専攻する医師のみならず、広い領域に演繹できる能力を養うことにつながる。当プログラムは東海地域の中心的プログラムで、領域内のほぼすべての大学病院及び地域基幹病院との連携・共診ネットワークを形成している。初期研修終了後、後期研修において肝胆道系を中心とした消化器外科修練(消化器外科専門医取得相当)を行ってからのこのコースに入る形が定型的であるが、後期研修での体験コースや、将来肝臓専門医を目指す内科志望者の参加も考慮する。



(2) コースの概要

コース名：肝移植医療コース						
大学病院・ 医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者 数	目的	養成(受 入)人数	期間

名古屋大学 附属病院	移植外科	生体・脳死 肝移植	4名	肝疾患診療から肝 胆道外科、集中治 療、医療倫理に至 る集学的医療技術 の習得	各期毎2 名程度	6ヶ月 ～4年 間
同	消化器外科 1及び2	肝胆道外科	数名	肝胆道外科を中心 とした消化器外科 修練	1-2名	6ヶ月
同	消化器内科	肝臓内科	数名	肝疾患診療の知識 と技術の習得	1-2名	6ヶ月
同関連病院	消化器内科 /外科	肝臓内科/ 外科	数名	肝疾患診療/肝胆 道外科の修練	1-2名	6ヶ月
				受入人数	6名	

(3) コースの実績

肝移植実施症例は年間 20 例程度であるが、その約 5 倍に及ぶ適応評価症例、経過追跡症例を抱えており、主として院内消化器内科肝臓診療グループとの連携によって診療を行っている。これまでに、大学院生のみならず、近隣医科系大学及び東京などの遠隔基幹病院からの短期(6ヶ月間)研修生を計7名迎えており、診療研修のみならず、学会活動・論文執筆などの臨床研究面でも成果を上げている。

(4) コースの指導状況

外科系指導者3名、内科系指導者1名の体制であるが、診療面の研修と知識・技術の習得と安全性確保は頻回のミーティングと日常の共診体制によって支えられており、内科系関連各領域、放射線科、病理部、検査・輸血部などとの院内連携・指導体制も確立している。院内関係領域症例検討会や医局を超えた地域施設との適応検討会、さらに全国規模の研究会での発表の機会も用意している。

(5) 専門医の取得等

学会等名	日本肝臓病学会、日本移植学会、日本肝移植研究会
資格名	肝臓病専門医(肝移植専門医は国内ではまだ設定されていない)
資格要件	肝疾患の診療経験と筆記試験(日本肝臓病学会)
学会の連携等の概要	
国内の肝移植診療については、日本肝臓病学会、日本移植学会、日本肝移植研究会が密接な連携を行って統括しており、当該コース実施施設は脳死肝移植(国内13施設)および生体肝移植の認定施設である。	